

5年「工業の今と未来」にプラスワン

(教科書では『小学社会 5 上』 p. 142～154)

この小單元では、主に「工業の種類と工業生産額の割合」「工業地域の分布」「中小工場のものづくりの特色」の三つの内容を学習する。短い配当時間数の中で、様々な内容を学習するため、問題解決型の学習にすることが難しく、教師主導型の展開になりやすい。

そこで、この小單元では、導入で工業製品に対する児童の興味・関心を高めるために、広告のチラシを使って工業製品の仲間分けをする活動が設定されている。児童の意欲が高まる活動だが、時間がかかると1時間の授業では終わらないことがある。また、広告のチラシには、金属工業の製品が掲載されていないことも多い。

ここでは、より短い時間で行うことができる別のプランを紹介する。

1 学習の初めを、全員が発言できる発問から始める

自動車工業や貿易について学習した後なので、工業に対する児童の関心も高まっていることだろう。この小單元では、次のような発問で展開していくと、これまでの学習となめらかに接続することができる。

- T) 自動車は工場で作られていました。工場で作られているものは、ほかにどんな物がありますか。一人一つずつ言っていきましょう。
- C) マヨネーズ。
- C) お菓子。
- C) 筆箱。

児童の発表はすべて板書していく。できるだけ人とは違う物を言うよう指示する。児童が発表した工業製品が仲間分けの材料になるため、学習への参加意欲も高めることができる。全員の発表が終わったら、仲間分けに入る。

- T) 自動車のように、たくさんの部品を組み合わせた道具をつくる工業を、機械工業と言います。ここに書かれた道具の中で、機械工業のものはありますか。
- C) オートバイ。
- C) テレビ。
- C) スマートフォン。
- T) 教科書 142 ページには、機械工業以外の工業が出ています。仲間分けしてみましょう。よく分からないものは、隣の人と相談してもいいです。

グループで仲間分けをさせてもいいが、一人で行わせてもいい。しかし、いきなり一人で仲間分けをさせようとする、要領が分からず、つまづく児童が出てくる。まず、機械工業について全員で仲間分けを行い、そのあと、他の工業については一人で行うようにさせると、つまづく児童が少なくなる。

しばらくしたら、発表させていく。子どもによって意見の分かれるものや、どの工業に入れたらいいか分からないものがあつたら、教師が助言していく。教師にも分からないものが出てきたときには、黒板の端に「？」というコーナーをつくり、「先生にも分からないや。誰か調べてくれる？」と言いながら、書き込めばいい。

この学習活動は、自動車工業や貿易について学習した後に行うこともできるが、工業単元全体の導入として行うこともできる。



2 多様な立場に立って話し合う「サミット型話し合い活動」をプラスワンして、多角的に考える力を高め、学習を深めていく

これからの学習では、主体的、対話的で深い学びがいつそう求められている。また、高学年では、多角的に考える力を高めることも大切である。多角的に考えるとは、様々な立場に立って考えることだ。他者の立場に立って考える場を意図的に設けることが効果的だ。

そこで、学習の最後に、多様な立場に立って「これからの工業生産」について話し合う「サミット型話し合い活動」を行ってみてはどうだろうか。進め方は以下の通りだ。

班の数だけ立場を設定し、班ごとに担当する。

- | | | |
|-------------------|-------|-------------------|
| ①大工場 | ②中小工場 | ③輸入相手国（日本に製品を売る国） |
| ④輸出相手国（日本の製品を買う国） | ⑤消費者 | ⑥政府 |

立場の数は六つ程度がいいだろう。班の数がそれ以上ある時には、この活動の時だけ、グループを編成し直すといい。

班ごとに希望する立場を決めていく。希望が重なった時には、じゃんけんで決める。それぞれの立場でどんな主張をするのかを考え、資料を用意していく。授業だけでは時数に限りがあるため、班ごとの話し合いは、給食の時間を活用した。この時間で、どんな内容を主張するか、誰が発表者になるかなどを決めさせた。「サミットの時には、口で言うだけでなく、何か見せるものがあると効果的だよ。」と話す、用意する班が出てくる。

5人グループならば、主に発表を行うのは2人とする。ほかの3人は黒板に主張の要点を書いたり、他の班への質問を行ったりするようにさせる。

机はU字型に配置する。前列に発表をする2人が座り、後列にサポートの児童が座るようにする。

話し合いは、まず、前半は各グループの主張を聞き合う。作戦タイムを取って、各グループで質問を考え、後半は全体で意見交換を行う。「工業サミット」での話し合いの一部を紹介する。



「大工場」

C) 大工場で使う部品などは、中小工場で作られています。けれども今、中小工場では、働く人が減っています。中小工場で働く人が減ってしまうと、大工場もつぶれてしまうかもしれません。だから、中小工場で働く人が増えてほしいと思っています。

「中小工場」

C) 技術を受け継ぐ人が少なくなって困っています。中小工場がなくなると大工場も不安定になると思うので、技術を受け継げる人を探しています。

「政府」

C) 韓国・台湾・香港などのアジアの地域へは、半導体など、日本の高い技術を生かした製品が輸出されています。高い技術のある中小工場の輸出を増やしていきたいです。

「質疑」

C) 中小工場で働く人を増やすには、どうしたらいいと考えていますか。

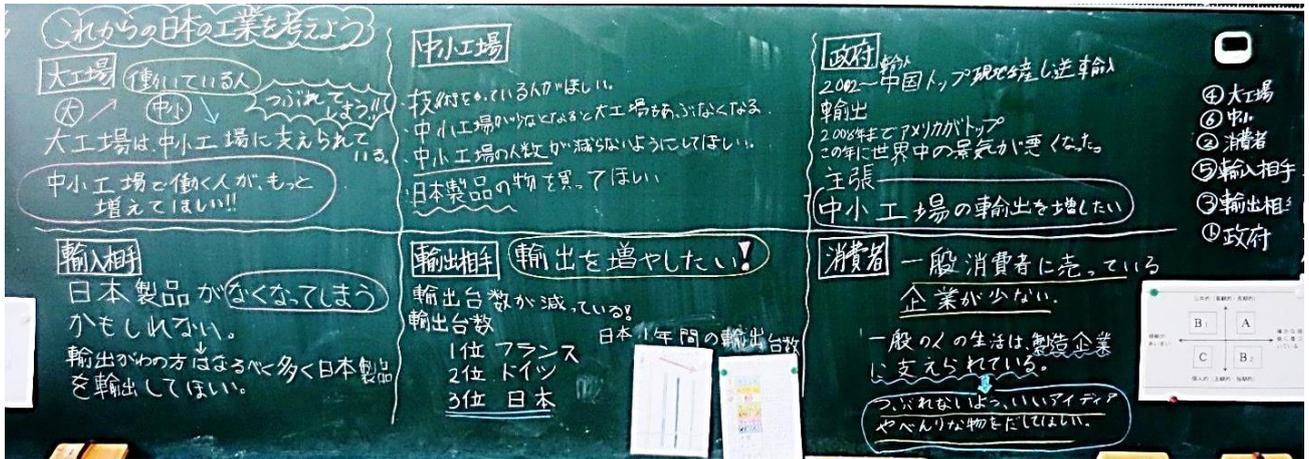
C) 中小工場からの輸出が増えて生産額が上がれば、働く人も増えると思います。

C) どうしたら、中小工場の輸出を増やすことができるのでしょうか。

C) 消費者のみなさんは、便利な物を作ってほしいと言っていたけれど、大工場も中小工場もいい製品を作ろうといつも心がけています。日本の製品を買わないで、海外から輸入した製品を買っているのは消費者だと思っています。

C) ボルトやネジなどは業者や企業が買うことが多いので、一般の消費者が買う割合はどうしても少なくなってしまう。

このときは、「これからの日本の工業を考えよう」という大きなテーマで工業サミットを行ったが、「日本の工業を盛んにするにはどうしたらいいか」のように、より具体的なテーマを設定した方が、子どもたちも考えやすいだろう。この話し合い活動は、農業や水産業の単元で行うことも可能である。児童たちも主体的、対話的に考え、学習を深めていくことができる。ちょっと大きなプラスワンだが、挑戦してみしてほしい。



(2017年9月)

あらし けんしゅう
嵐 元秀

東京都の公立小学校教師。教師歴29年。

楽しみながら、調べ・考え・表現する力が高まっていく
社会科授業を旨として研究・実践をしている。